

普及活動情勢報告（令和2年7月分）

中央東農業振興センター農業改良普及

J A 香美地区フルーツトマト部会栽培講習会の開催



7月1日、J A 香美地区フルーツトマト部会栽培講習会が、J A 夜須集荷場2階会議室で開催され、生産者17名が参加しました。農業改良普及課からは生育調査による診断の目安案や時期に合わせた灌水量の調節などの情報提供を、環境農業推進課からは農薬の使用方法について説明がありました。生産者は農薬や栽培管理についてメモをとり、会の後も質問をしている姿も見られました。今後も関係機関と連携し、生産者の生産技術向上に向けた支援を継続していきます。

J A 高知県土長地区ゴーヤ部会現地検討会の開催～梅雨の晴れ間に～



6月29日、J A 高知県土長地区ゴーヤ部会現地検討会が、J A 高知県久礼田支所2階会議室と露地、雨よけハウスの現地ほ場で開催され、生産者9名が参加しました。会では、J A から販売規格、農薬使用、農業改良普及課から気象情報、病虫害防除の注意点を説明しました。5カ所現地ほ場を巡回し、J A から各ほ場の耕種概要、農業振興センターからは、生産者から質問のあった曲り果や生育不良について、気象データを元に要因と対策を説明しました。生産者の収量増加に向けた関心の高さが感じられました。今後も、J A と連携し、生産者の栽培技術の向上を支援していきます。

「物部ゆず」が（GI）地理的表示に登録



6月29日、J A 高知県香美地区物部柚子生産部会が農林水産省に申請していた「物部ゆず」が、県内の農産物で初めてGI（地理的表示）に登録されました。農業改良普及課は、登録までにJA高知県香美地区と連携して、部会の総会や勉強会等でGI制度への理解を深め、申請書類の作成に助言するなど支援をしました。青果ユズで日本一の出荷実績である部会では、GIマークを出荷箱や小袋包装に表示する意向であり、部会長からは「GIでこれまで以上にブランド力の向上を目指していきたい」と期待を寄せていました。今後、農業改良普及課では、同部会のGIを活用したブランド力の強化に向けて支援します。

農業を続けやすい仕組みづくりに向けて ～南国市中山間地域等直接支払制度説明会～



6月24日、南国市の中山間地域等直接支払制度説明会が開催され、11名が参加しました。

農業改良普及課では、農業を続けやすい仕組みの一手段として、集落営農について事例を交えて説明しました。

併せて行ったアンケート調査からは、半数以上が「後継者不足」「草刈り作業が大変」と感じていることが分かりました。その中に「集落営農を検討したい」「農地・水路等を補修・改良したい」と前向きな意向もあったことから、今後は意向のあった方を中心に詳細を聞き取りながら、関係機関と協力して集落の課題解決を支援していきます。

優良種子の生産安定に向けて ～水稻採種圃の圃場審査を実施～



7月7日及び15日に稲生採種組合の水稻採種圃の圃場審査を実施しました。

圃場審査では、看板の有無、異品種の有無、特定病害やその他病害の発生状況等を審査しました。全ての圃場で看板が設置され、特定病害の発生もありませんでした。ほとんどの圃場では、生育もよく揃っており、除草や防除等の栽培管理もされていましたが、管理が不十分であった圃場では再審査を実施しました。また、肥料ムラによる生育ムラがあり、別刈りを指導しました。罹病程度は低いものの、いもち病や紋枯病の発生も見られました。審査結果の報告に、生産者は納得した様子で、収穫に向けて気持ちを新たにしていました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、優良種子の生産安定に向けて支援していきます。

J A 香美地区やっこねぎ部会～夏場の高温による葉先枯れ対策を関係機関と協議～



やっこねぎ部会では、昨年からの夏場の高温による葉先枯れ対策の試験を行っています。7月16日、東京・大阪から来高した遮光資材メーカー担当者やJ Aと、生産部会役員の設置ほ場を巡回しました。昨年度に使用した感想やハウス内温度データについて6名が協議し、今年は、灌水方法もあわせて7月下旬から発芽・生育の調査をすることが決まりました。

新型コロナウイルスなど社会情勢を踏まえて、メーカーとのリモート打ち合わせを行い、さらなる情報提供やデータの測定方法について、今後も協議します。

今後も関係機関と連携し、生産者の生産技術向上に向けた支援を継続していきます。